



特定非営利活動法人 Arts Planet Plan from IGA

アトリエニュース

〒518-0205 三重県伊賀市伊勢路字青山1381-77 Tel.(186-)0595-53-1077



[2016.9.10 発行 編集担当 : 森田 佳子]

まだまだ暑さが残りますが、虫の音に少しずつ秋の到来を感じる頃となりました。今号は盛りだくさんの内容です。毎年恒例となっている「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀」に関連する行事や夏に行われた活動を中心にお伝えします。

今年も、間もなく始まります。「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2016」

2002 年度に「春のかたち展」で始まった現在の「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2016」。爾来、数回の名称変更を経て、2003 年度と 2005 年度を除く毎年、開催してきて、今年で通算 13 回目を数える。矢持地区市民センターでの開催は 9 年目となる。4 年前からは実行委員会方式に改め、本法人は事務局所在地となり、地元の方々と協調しながら、相変わらずその運営の中核となり、一翼を担っている。「風と土のかたち展」は 13 回目、「アーティストインレジデンス」は、2003 年度から始まり、今回で 7 回目となる。2013 年度から風と土のかたち展との連動性を強め、毎回の開催としている。「風と土のアートフェア」は 4 回目である。本年度から、芸術祭の名称の年号表記を最後尾にした。「風と土」で検索した際、比較的早く検出できるからで、少しでも認知度を上げたいとの思いから遣れるところから改良を加えている。

法人の販売ブースも初めて設け、会員の皆さんから提供された作品の販売を行う。どのようなお宝が出品されるか、今から楽しみで、売上の一部は本法人の活動資金に寄付される。ご家族・知人などをお誘いの上、是非、多数ご来場された。今年の風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2016 は、どのような彩を来場者の皆様に提供できるか？ 乞う！ご期待。



アーティスト イン レジデンス 制作公開



AiR は 8 月 13 日(土)から参加作家の大野高輝さんが矢持地区市民センター(旧矢持小学校)の元音楽教室を制作拠点に定め、熱心に制作されている。

名古屋芸術大学洋画コース 3 年生の 22 歳で、半立体インスタレーションの絵画で、様々な素材を活用して表現されるようである。今までの参加作家の中でも最年少の方になるが、活動意欲の旺盛な方で実績も申し分なく、その制作の行方を見守りたい。

残りの公開期間に、多くの方に、会場に実際にお越し頂き、ご覧頂きたいと願っている。

イベント大盛況！「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀@崇広堂 2016」



突如打診されたイベント。聞いた時には、ほぼ受けざるを得ない状況で、先方の担当者との顔合わせ後、急遽、出品者募集の文案作成。ポスター、チラシ用の写真撮影は 1 週間後。7 月 24 日の説明会の際に作品を持ち寄って頂くことにし、参加を容易にして、個別に出品要請。そんなタイトな日程にも関わらず、28 名、58 点のご出品を頂いた。搬入・搬出も伊賀市文化都市協会の職員の方数名と当法人からは 4、5 名の極少数で全てを行った。このような形で、今年、初めて伊賀上野の史跡旧崇広堂(藤堂藩藩校跡)を会場に、伊賀市文化都市協会主催のライトアップイベント「お城のまわり」に協力する形で「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀@崇広堂 2016」は、かくして始まった。ロケーションとも相まって見応えのある展示が実現し、8 月 11 日～14 日の 4 日間の開催ではあったが、1,000 人以上の来場者があった。マスコミや行政ニュースの取材も複数あり、9 月の本番への集客の一助となることを期待している。特に 13、14 日は大変盛況であった。11、13、14 日は出展者が自らの楽器を使って演奏するライブもあり、好評を博した。これは同じ伊賀市内で風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀が、伊賀市矢持地区市民センターで開催されているにも関わらず、最大人口を有する伊賀上野を中心とする伊賀北部の人々への認知と来場が不十分と感じていたからだ。イベントとしてはどの程度周知できたか分からないが、芸術祭の存在そのものは少しは示せたと思う。

9 月の本番に、これまでよりは多くの方々の御来場を期待したい。

(風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 実行委員会 森田 耕太郎)

第1回実技講習会「楽器づくり&演奏 / デジリドゥ」



今回は「デジリドゥ」の演奏兼制作者の古川英正氏を講師にお迎えし、会員6名、一般7名、定員を上回る計13名の方々にご参加いただき、にぎやかに開催されました。

はじめに竹の節を抜いて中を整えたあと、各々に模様つけ。バーナーで焼き色をつける方、絵の具でカラフルにペイントされる方とそれぞれの仕上がりになりました。

吹き口をミツロウでつくった後は、皆で音を出すためにアトリエの裏山?に。緑いっぱいの中で音を響かせるのはとても気持ちのよいものでした。皆さま、ありがとうございました。

(実技講習会 担当：森田 佳子)

自主活動グループの合同夏合宿

恒例となった「夏合宿」は、8月11日～14日までの4日間、今年は、法人内の2つの自活動グループ「庵プロジェクト」「粘土カフェ」合同で行いました。「庵プロジェクト」の参加者は、学生ボランティアさん1名を含む、のべ9名、土台の石が綺麗に敷き詰められ、4本の柱には防腐剤が塗られました。猛暑の中、外での作業は、大変だったことでしょう。

「粘土カフェ」の参加者は、のべ32名でした。最初に、不足分の薪割りを行い、予定の薪550束を達成した時は、拍手が起きました。毎日実施した作陶会には、初めての参加者3名ほか、たくさんの参加がありました。窯の扉の改修の方は、鋼の枠組みが完成、また、煙突のトタン部分の撤去もできました。作業の後は、泊まる人と希望者で、プレイベントを開催している崇廣堂での「風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀@崇廣堂 2016」の展示の見学に行き、温泉や外食も楽しみました。



第8回「穴窯焼成」作品持ち込みのお願い

10月16日(日) 10:00～17:00 ・ 11月19日(土) 14:00～17:00

作品には必ず名前(または窯印)を刻して、持ち込んでください。焼成費を集金いたします。

両日とも、窯の整備・窯詰め準備を行います。作業手袋には名前を書いて持参、作業し易い服装で参加してください。また、作品をお送りいただく場合は、できるだけ素焼きをして、両日のいずれかの午前中に着くようにご手配ください。焼成費、窯詰め・窯焚きの日程などは、同封のチラシをご覧ください。

(「粘土カフェ」担当：田上 早百合)

いがぶら「本格穴窯焼成で陶芸を楽しもう！」参加者募集 はじまりました！

今年で3回目を迎える「いがぶら」(伊賀ぶらり体験博覧会の略称)に初めて参加することにした。今年から出展料も必要だが、公式ガイドブックの配布数が膨大で、伊賀市や名張市はじめ、三重県内はもとより京阪神の主要な旅行ガイドの設置先にも置かれるそうだ。法人の広報にも一助となりそうである。

内容は穴窯焼成を前提とした作陶会。11月20日(日)開催である。粘土カフェのメンバーが制作補助をしてくださり、昼食は本格手打ち蕎麦と野菜天婦羅。これも会員さんのボランティア。一般だけでなく、会員も申し込めるので、是非、ご参加されたい。また、風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀 2016 の広告も初めてガイドブックに掲載した。何れも本法人の存在と活動内容及び風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀の紹介と告知が一番の眼目である。

一度、プログラムを手にとってご覧頂きたい。いがぶら公式HPも公開中で申込みもできる。必見!<http://igabura.com>

(いがぶら担当：森田 耕太郎)

事務局からのお願い

- 本法人は、皆様方からご納入頂きました会費で運営されております。常々、ご協力有難うございます。未納の方は、早目の納入にご協力をお願い致します。

(郵便局) ゆうちょ口座：00890-1-106346 NPOアーツ プラネット プラン フローム イガ

(他行) ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番 089 店名 ○八九店(ゼロハチキユウ店)
当座 0106346 アーツプラネットプランフロームイガ